記者発表資料

いのちとくらしをまもる
防　災　減　災

令　和　２年　１０月　５日
東　北　地　方　整　備　局
岩木川ダム統合管理事務所

10 月 7 日に「防災通信訓練」を実施します

～　災害発生時の情報収集や自治体支援を強化　～

令和 2 年 7 月 7 日に予定し、延期となっていた「防災通信訓練」を令和 2 年 10 月 7 日に実施いたします。

本訓練は、災害対策本部車、衛星通信車などによる現地災害対策本部と被災現場を防災ヘリ「みちのく号」をはじめとする、各種移動通信機器を現地で設営接続する訓練を実施するほか、黒石市への各種画像配信等を行うと共に黒石市長とのテレビ会議システムによる迅速な情報共有を通じて、災害支援体制の強化を図ることを目的に実施します。

1. 訓練日時

令和2年10月7日（水）10:00～15:00

2. 実施場所

①黒石市役所駐車場
②道の駅「虹の湖」

3. 訓練想定

①豪雨により、国道102号土砂崩落により青森県黒石市厚目内地区で孤立集落が発生
②黒石市役所に派遣したリエゾン情報により、画像提供等の支援

4. 訓練ポイント

① **防災ヘリ「みちのく号」による被災状況調査**
② **道の駅「虹の湖」（想定災害現場）**
・防災ヘリ「みちのく号」、「衛星小型画像伝送装置（Ku-SAT）」、「公共ブロードバンド移動通信システム（公共BB）」を用いた被災現場からの画像伝送訓練
③ **黒石市役所（現地災害対策本部）**
・「災害対策本部車」、「衛星通信車」、「5GHz 帯無線アクセスシステム（i-RAS）」 を用いた通信回線の設営訓練
④ **東北地方整備局、青森河川国道事務所、岩木川ダム統合管理事務所、黒石市**
・テレビ会議システムを活用した情報共有訓練

5. 訓練参加者

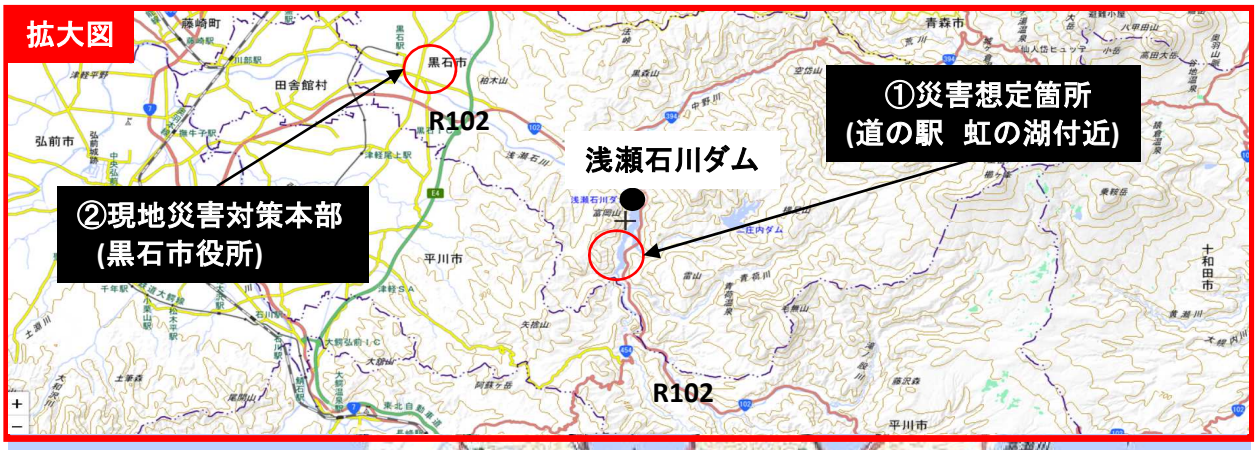
東北地方整備局、青森河川国道事務所、岩木川ダム統合管理事務所、高瀬川河川事務所、黒石市、建設電気技術協会　東北支部

※当日の気象条件等により、訓練を中止又は延期する場合は、岩木川ダム統合管理事務所ホームページでお知らせします。http://www.thr.mlit.go.jp/iwakito/
※当日、訓練状況の取材は、13 時 45 分から黒石市役所駐車場にて可能となっています。
※新型コロナウィルス感染症拡大防止の観点からマスクをご着用頂くとともに各社必要最小限の人数でお願いいたします。

＜発表記者会＞宮城県政記者会、青森県政記者会、東北電力記者会、東北専門記者会
弘前記者会、黒石記者クラブ、専門紙各社

【訓練に関しての問い合わせ先】
国土交通省　東北地方整備局　防災室　TEL:022－225－2171（代表）
防災情報調整官　宮永　悠平　（みやなが　ゆうへい）　（内線２１２４）
防災室長　本木　雅信　（もとき　まさのぶ）　（内線２１５１）
国土交通省　岩木川ダム統合管理事務所　TEL:0172－85－3035（代表）
副所長（技術）　佐々木良浩　（ささき　よしひろ）　（内線２０４）
建設専門官　荒川　晋　（あらかわ　すすむ）　（内線４０３）

防災通信訓練　位置図



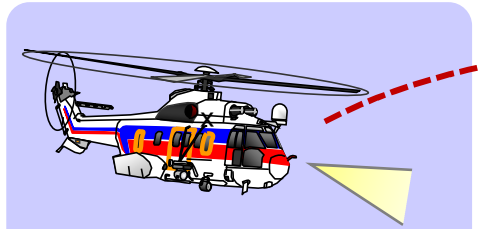


出典：地理院地図に防災通信訓練会場等を追記して掲載

防災通信訓練　スケジュール

時間	対　応	場所
	移動・設営訓練	
10:00	防災通信訓練開始	
	i-RAS設営訓練	②
11:00	災害対策用機器派遣訓練（移動）	②
	Ku-SAT設営訓練	①
12:00	災害対策本部車設営完了	②
	映像配信訓練	
13:30	多様な通信機器を活用した情報伝達訓練	①
	・公共BB、ドローン、Ku-SATを用いた被災現場からの映像伝送訓練	
14:15～	関係機関との情報共有	②
14:30	・テレビ会議システムを活用した支援自治体（黒石市）との情報共有	
15:00	訓練終了	

防災通信訓練　全体概要図



みちのく号による伝送訓練

通信衛星

映像、音声
（ヘリサット）

国土交通省本省

映像、音声、データ
（光ファイバ）

テレビ会議

青森河川国道事務所

テレビ会議

東北地方整備局

③テレビ会議

テレビ会議

黒石市役所

テレビ会議

岩木川ダム統合管理事務所

③自治体との連携

映像、音声
（ Ku-SAT）

映像、音声
（衛星）

Ku-SAT

映像
（ドローン）

ドローン

衛星通信車

公共BB

映像
（公共BB）

公共BB

対策本部車

i-RAS

映像、音声、
データ
（光ファイバ）

映像、音声
データ
（i-RAS）

i-RAS

岩木川（千歳橋CCTV）

①災害現場（道の駅　虹の湖）

・Ku-SAT及び公共BB、ドローンを連携させた映像配信訓練

②現地災害対策本部（黒石市役所）

・対策本部車（現地災害対策本部）の設営訓練
・i-RASを用いた通信回線の設営訓練
・衛星通信車による映像配信訓練
・支援自治体（黒石市）とのテレビ会議

防災通信訓練　主な防災通信機器の概要



・災害発生後、上空から広域的に状況を把握するヘリコプター。
・カメラ撮影映像を衛星回線を使用してリアルタイムでの送信が可能。衛星回線を使用するため地上の遮蔽物の影響受けずに伝送可能。

東北地整防災ヘリ「みちのく号」



・アンテナの対向通信で約30km程度離れた地点から、映像や音声の配信を可能とする装置です。
・現地災害対策拠点に執務室と同様の環境を構築できます。

i-RAS（5GHz帯無線アクセスシステム）



・災害現場で指揮を行う車両で、現地災害対策本部として機能します。
・情報収集のため各種通信機器を装備しています。
・車内でテーブル等を設置し10名規模の打合せが可能です。

災害対策本部車



・約5km程度の範囲を移動しながら映像や音声を伝送可能な装置です。
・障害物による遮蔽等に強いため、車両の進入が困難な災害現場において移動しながらの映像伝送が可能です。

公共BB（公共ブロードバンド移動通信システム）



・衛星通信装置を搭載した車両で、災害現場の映像を送受信したり、通信を確保したり、災害現場の状況把握に利用します。

衛星通信車



・持ち運びできる衛星小型画像伝送装置で、災害現場において衛星回線を用いて映像を伝送することができます。

Ku-SAT（衛星小型画像伝送装置）



・i-RAS、公共BB等による自営回線を構築することで、災害時にもテレビ会議システムの設営を行うことができます。

テレビ会議システム